

コインランドリー「ライフクリーン」がオープン

(株)JA秋田なまはげライフサービスが運営するコインランドリー「ライフクリーン」が7月23日(木)、秋田市広面の本社敷地内にオープンしました。同日と翌日には、各日の先着100名様にオリジナルの大型バスケットを贈るオープニングイベントが開かれ、多くの地元住民の方々が朝早くから洗濯物を手に駆けつけました。

白色と水色を基調とした店内には、最新型の洗濯乾燥機4台や乾燥機10台、スニーカー専用ランドリー1台が並び、カフェのようなデザインの休憩スペースも併設されています。同社の鎌田徹社長は「既存の施設とは違ったものになりたいと準備を進めてきた。地域の皆様に喜ばれるランドリーにしていきたい」と話しました。

オープン記念のオリジナル大型バスケットは、8月から本社で販売しています。

乾燥機を初稼働させる
鎌田社長



仕上がりをゆっくり待つことができる休憩スペース



洗濯物や普段の買い物にも使えるオリジナル大型バスケット



最新機器が並び店内が初日から賑わいました



NEWS & TOPICS

枝豆の出荷がスタート

当JA管内での枝豆の出荷が、7月から始まりました。秋田市雄和の園芸集出荷施設での共同選別が18日(土)から始まり、19日(日)から県内外へ出荷されています。

出荷に先がけて7日(火)と8日(水)に圃場巡回が行われ、生産者と当JAの営農指導員が各品種のさやのつき具合や病害虫の発生状況などを確認しました。出荷開始後の21日(火)に行われた目揃え会では、生産者ら約40名が厚さ選別や光選別などの共選設備の選別過程ごとに枝豆の品質基準を学び、販売額の3年連続1億円達成に向けて意識を高めました。

枝豆の出荷は品種をリレーして、10月まで続く予定です。

枝豆の等級基準を確認する参加者



「わかみメロン」目揃え会

7月13日(月)、「わかみメロン」の目揃え会が野石集出荷所で開かれ、生産者や市場関係者ら約50名が出荷規格や市場情勢などを確認しました。箱詰めされたメロンを等級と規格ごとに見比べながら、サイズや網目の状態などについて意見を交わしました。

例年は決起大会で出荷規格を確認していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため同大会が中止となり、集出荷所内での目揃え会の開催となりました。

男鹿地区営農センター管内では今年度、48名の生産者が17.3ヘクタールで青肉の「秋田美人」や赤肉の「美人レッドメロン」などを手掛けています。「わかみメロン」の出荷は8月中旬まで続く見込みです。

メロンを見比べて出荷規格を確認する生産者

